



名古屋市立大学男女共同参画推進センター ニュースレター Vol.15

2015年10月

2015年、名古屋市立大学は開学65周年を迎えました。

MESSAGE 連携型プログラム参加者のメッセージ

平成26年度から取り組んでいる「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」では、女性研究者リーダーシッププログラムや、研究力強化セミナーなど、女性研究者が力をつけていくためのさまざまな取組を行っています。本年度それらのプログラムに参加した2名の研究者からメッセージが寄せられました。

平成27年度男女共同参画推進センター主催の一連のプログラムに参加して

薬学研究科 臨床薬学分野 講師 菊池千草



私は幼いころから「謙虚さは美德である」と教育されてきた。そのためか、自己アピールすることが大の苦手であった。ところが、病院薬剤師から大学教員に転向してからは自己アピールすることが強く求められてきた。研究では、成果を得てもアピールできなければ認められない。教育では、アピールできなければ学生の記憶に残すことはできない。困って

いたところに、男女共同参画推進センター主催の一連のプログラムへのお誘いがあった。しかし、私は結婚を機に英会話の勉強をしなくなり、どんどん忘れていた。また、はっきり言って若くない。参加してよいものかとても迷ったが、今受講しなければ二度とチャンスはないのではないかと思い、受講することに決めた。

英語論文執筆セミナーの講師は英国出身のTam Young先生。奥様が日本人だそうで、日本語も堪能であった。ここでは英語論文を書く際の思考方法を鍛えられた。“Why”を繰り返して、論旨を明確にしていくこと、あいまいな表現をさげ、具体的に表現することを学んだ。

英語プレゼンテーションセミナーの講師も同じくTam先生。プレゼンの20%しか聴衆の

記憶に残らない。自分が伝えたいことをどうやって20%に組み込むかを教えられた。

リーダーシッププログラムでは、名古屋大学副理事・東村博子先生からはピンチを乗り越える方法を、名古屋大学前総長・濱口道成先生からは国の現状と方向性を教えていただいた。Elizabeth先生とGinger先生からは自信を構築する方法を学んだ。私は無意識のうちに、いかに自信のない態度をとっていたか、それが、どれほど周囲を不安にさせていたか気づくことができた。

どのプログラムも参加して本当に良かったと思っている。

プログラムへの参加を勧めてくれた男女共同参画推進センターの皆様、そして、共にプログラムに参加してくださった先生方と大学院生さんに、厚く御礼申し上げます。

英語論文執筆セミナーおよびプレゼンテーションセミナーに参加して

薬学研究科 細胞情報学分野 助教 伊藤友香



7月から9月にかけて、英語論文執筆セミナーは田辺通キャンパスにおいて6回、プレゼンテーションセミナーは桜山キャンパスにおいて12回開催されました。

英語論文執筆セミナーには6名の方が参加され、薬学研究科からの参加が主でした。最初

は緊張していましたが、様々な分野で研究されている方が参加されていたことから、違う分野の研究を聞くとても良い機会となりました。セミナーの前半は講義中心でした。「Planning your paper」という主題のもと、研究の分類分けや問題提起の重要性、解決の方法などについて講義を受けました。後半は実践中心の内容となり、自分の研究を客観的に評価し、題名や要旨を添削していただきました。少人数制であったことから、個人のレベルや研究内容に合ったセミナーであったと感じています。

プレゼンテーションセミナーは、桜山キャンパスはもちろん、滝子キャンパスや田辺通キャンパスからの参加がありました。テキストを用いた講義形式のセミナーでしたが、回数も多く、宿題

もあったことから英語に接する時間が大幅に増えました。各単元が終了するとプレゼンテーションがあり、テーマも比較的自由であったことからとても楽しく参加できました。また、お互いを評価しあうことで自分の良い点、注意すべき点を見直すことができました。

テキストにはDVDが添付されており、参加できなかった部分についても自習できるように工夫されていました。また、文例が多く、実際のプレゼンテーションにおいても役に立つ表現が多くありました。「母国語でないからこそ表現できる」という姿勢はプレゼンテーションを学ぶ上でとても大切なことだと思いました。英語は苦手だと思っている方も、参加することでプレゼンテーション技術を向上させることができると思います。

INFORMATION お知らせ

AICHI女性研究者支援コンソーシアム 女性上位職事例紹介シンポジウム 「大学と企業の女性リーダーの生き方に学ぶ」

大学と企業で活躍する女性リーダーの経験談から、キャリアパスや組織のあり方について考えてみませんか。お申込み・お問合せは男女共同参画推進センターまで。参加は無料、当日参加も歓迎です。託児利用の場合のみ、11月16日までにお申し込みください。

日時：11月26日(木)13:00~16:15
場所：名古屋市立大学田辺通キャンパス (基調講演)宮田専治記念ホール (分科会)OSCE室

基調講演 「女性研究者の過去・現在・未来～薬学系を中心に」 山縣ゆり子氏(熊本大学大学院生命科学研究部教授、男女共同参画担当副学長)
分科会 A 女性研究者として生きるには B もっと自由に、もっと楽しく♪試し続け進化する C 若手女性研究者が語る研究の魅力とこれから D 社会起業という生き方



大学院医学研究科・男女共同参画推進センター共催講演会 「医師のワーク・ライフ・バランスを考える」

医療関係者、とりわけ医師は仕事に追われる生活になりがちです。医療分野におけるワーク・ライフ・バランスに先進的に取り組んでいる大阪病院の事例を通して、仕事と生活のバランスについて一緒に考えましょう。

日時：11月6日(金)15:00~17:00
場所：名古屋市立大学医学部同窓会館
講師：福田綾氏(大阪病院・産婦人科部長)

ハラスメント研修会 「ハラスメントの現状について」

ハラスメントの現状について共に考えましょう。教職員・学生が対象です。

日時：12月2日(水)16:30~18:30
場所：名古屋市立大学病院 病棟・中央診療棟3階大ホール
講師：加藤洪太郎氏(弁護士)

研究力強化セミナー 「ディスカッションから学ぶ文系英語論文執筆セミナー」

10/13(火)からスタートしたセミナーですが、途中からの参加も可能です。

日時：11月10日、11月24日、 12月8日、12月22日(すべて火曜日) 11:30~13:00
場所：山の畑キャンパス3号館第2会議室 (11/10のみセミナー室)



講師のタム・ヤング先生

※お問合せ、申し込みは男女共同参画推進センターまで。

対象者：本学に在籍する個人・グループ・組織、および卒業生
応募内容：男女共同参画に関連した研究、あるいは男女共同参画に関連した社会的・教育的活動。いずれも過去2年以内のものが対象です。
受賞件数：研究・活動の各部門で、教職員・学生・卒業生ごとに原則として各1件
募集期間：10月20日(火)~12月10日(木)

※申請書の様式等、詳細は男女共同参画推進センターのウェブサイトをご覧ください。

図書館で男女共同参画関連の図書展示を行っています

総合情報センターでは、愛知県男女共同参画月間に合わせて男女共同参画に関連する資料を展示・貸出しています。この機会にぜひ手に取って読んでみてください。

展示期間：10月1日(木)~31日(土)
展示場所：総合情報センター川澄分館 1階展示コーナー／総合情報センター山の畑分館 2階カウンター前

2015年10月1日現在、本学の女性教員比率は23.4%です。

8月24日～26日

小学生サマースクールを開催しました！



今年も夏休みの3日間、教職員および学生のお子さんを対象とした小学生サマースクールを開催しました。小学1年生から6年生までの18名の子どもたちが参加し、人文社会学部心理教育学科の学生による保育サークル「ぼぼんた」のメンバー16名と楽しく過ごしました。

1日目は河川財団法人古屋事務所から4名の講師をお招きし、「プロジェクトWET」を体験。年々変わっていく自然環境の中で、川の魚がどのように生きているかを体験するアクティビティ

や、水の表面張力を利用して硬貨にしずくを落とし維持時間を競うゲームなど、水の不思議な性質や、生活とのかかわりについて楽しく学びました。

2日目は、科学館へ社会見学。学年別に分かれ、大学生に見守られながら館内を見て回りました。それぞれ見たいものが異なる一方で、「次はどこに行こう」とお互いの希望を聞き話し合いながら、たくさんの展示を見ることができました。

3日目は、ぞうりの輪の会から横井郁江さんをお招きし、リサイクル布でぞうりづくりに挑戦。長いひも状にした布を机に固定した器具にひっかけながら編んでいきます。布をひっぱりすぎて細いわらじにならないように、微妙な加減も徐々に学んでいきました。2時間後、全員が鼻緒をつけ終え完成させることができました。

この他には、宿題や読書、身体を動かす遊び、トランプ、基地づくり、生協での昼食など、サマースクール定番の活動を楽しみました。

7月15日

男女共同参画推進センター・総合情報センター共同開催 英語論文執筆支援セミナーを開催しました

第1部「英語論文の書き方(Technical Writing in English)」

理化学研究所創発物性科学研究センター 客員主管研究員 小野義正氏

英語で読み手に内容を正しく伝えるように書くためには、正確さ(Correct)、明確さ(Clear)、簡潔さ(Concise)(3C)が必要です。しかし、日本語の文章を英語に翻訳すると、3Cからはほど遠い、あいまいで読みにくい文章になりがちです。それは、英語と日本語の文章の構造や発想のしかたに大きな違いがあるためです。わかりやすい英語論文を書くためのポイントはまず、和文の論文をより論理的で構成のはっきりした文に「和文和訳」すること。そして、できあがりの論文の各部分が相互に関係しあっているように流れることだそうです。著書も紹介いただきました。

第2部「論文管理から執筆まで～Mendeleyによる論文管理と出版倫理～」

エルゼビア・ジャパン(株) ソリューションコンサルタント 高石雅人氏

Mendeley(メンデレー)は、学術論文の管理とオンラインでの情報共有を目的とした文献管理ツール。特に、グループ機能を使って他の研究者と文献を共有したり、個人プロフィールや研究成果を公開できる機能が、研究者の間で話題を呼んでいるようです。無料で使用できるバージョンもあります。是非お試しください。



小野義正氏 著書

『ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方』(丸善、2001、1300円)

『本場に役立つ科学技術英語の勘どころ』(日刊工業新聞社、2007、2000円)

教養教育科目「地域社会における男女共同参画をめざして」を行いました



平成24年度から始まった男女共同参画推進センターのプロデュース科目「地域社会における男女共同参画をめざして」。今年度は28名の学生が受講しました。

初回のオリエンテーションでは「そう思う・そう思わないゲーム」やCM内で描かれるジェンダーの分析を通じて、身の回りにあふれるジェンダーに気づくことができました。授業の前半、第2回～第8回のテーマは「多様な働き方とジェンダー」。3名の講師による6回の講義を通じて、働くことにまつわるジェンダーの問題やワーク・ライフ・バランスについて考えた後、受講者全員で働き方について考えるワークショップを行い、自分が将来どんな働き方をしたいか、一人一人の働き方を尊重するために何が必要か、みんなで話し合いました。授業後半、第9回～第15回のテーマは「若い世代の性とジェンダー」。ワークショップやグループワークも交えながら、多様な性のあり方や性暴力の問題について考えを深めていきました。デートDVの啓発に向けたアイデアでは、ポスターを作成するグループやゲームを考えるグループがあるなど、明日からすぐ活用できそうな力作が揃いました。

学生の声

- ◎性の多様なあり方を知り、視野が広がった。◎社会に対して、さまざまな視点でものを見れるようになった。
- ◎ジェンダーに関する多角的な視野が得られた。◎一人一人に考えさせる内容の授業がよかった。
- ◎ジェンダーの視点で社会の構造をより理解できた。◎グループワークがたくさんあって楽しかった。

授業内容

オリエンテーション

第1回
～日常生活にあるジェンダーをビジュアルから考える～

多様な働き方とジェンダー：ワーク・ライフ・バランスを考える

第2回～第4回
日本社会における労働のジェンダー構造

第5回～第6回
若年層の就労状況とジェンダー

第7回
多様な働き方：わたしをつくる、仕事をつくる、社会をつくる。
一参画プラネットの試み

第8回
働き方について考えるワークショップ

若い世代の性とジェンダー：セクシュアリティを考える

第9回
現代の若い世代の性

第10回～第11回
デートDVから見る私たちの社会

第12回～第15回
性同一性障害、性的マイノリティの権利

さくらんぼ保育所だより 子どもと大人が一緒になって

在所児のママ・パパ・おばあちゃん・おじいちゃんや卒園児ファミリー等、たくさんの子どもと大人が集まり行われた、さくらんぼ保育所の運動会。第一部では日頃の子どもたちの遊ぶ姿が披露され、第二部では大人と子どもと一緒にパン食い競争や障害物競争等を楽しみました。子どもたちの周りの大人たちみんなで、子どもたちの成長を喜び合う、そんなひとときとなりました♪

